

近くの大きな病院に友人の見舞いに行きました。そこで「血液内科」というあまり聞かない診療科を見ました。血液内科とはどのような診療をするところでしょうか。どんな症状の時いけばいいですか。

(西原町学生・15歳)

血液内科ってどんな診療科？



ハートライフ病院
血液内科医師

山入端 敦

血液内科と聞いても漠然としていて、一般の方はほとんどない事が多いかも知れません。簡単に説明するのも難しいのですが、主に血液細胞に関係した病気を診療しています。そして血液細胞は、骨髄と言われる骨の中心

部で産生されますが、赤血球・白血球（リンパ球も含む）、血小板に大別されます。

赤血球はヘモグロビンという蛋白を含み、それによって体中に酸素を運搬しています。貧血というのは、このヘモグロビンが減って酸素が足りなくなった状態です。

白血球（リンパ球も含む）は顆粒球、リンパ球、単球に分類されます。体の中に侵入してきた細菌やウイルスなどの

Dr.の見診

病原体を抑える免疫反応の主役であり、そのほかにはアレルギー反応にも関わったりします。血小板は怪我などで出血した際に、傷口を抑える接着剤のような働きをしています。いわゆる「かさぶた」となるものです。血液内科で扱う病気の大部分は、これらの血液細胞が増えているか減っているかです。例えば挙げますと、記述したように赤血球（ヘモグロビン）が減った貧血、骨髄で異常な白血球（芽球）が増える白血病、主にリンパ節で異常なリンパ球が増える悪性リンパ腫などがあります。身近に遭遇する病気から、頻度的に多くはないものの生命を脅かすような病気まで、血液内科が担当する範囲は比較的広いといえるでしょう。特に白血病や悪性リンパ腫などの血液悪性疾患の診療において

貧血から白血病まで血液全般

ては、高度な専門性が要求されます。治療としては抗がん剤や骨髄移植などを行うのですが、重症患者様も少なくはなく、日々悩みながら夜遅くまで働いている先生が多いと思います。

一般的に血液内科を受診される場合の代表的な症状としては、ふらつきや動悸（貧血症状）、風邪症状を伴わない発熱の持続（正常な白血球の減少による重度の免疫力低下）、繰り返し鼻血や皮下出血（血小板減少により出血しやすくなる）などが多いかと思えます。

早期発見が非常に大事ですので、心当たりある方は一度血液内科を受診されてはいいかがでしょうか。

.....
やまのはあつし 36歳、那覇市出身、琉球大学医学部卒、同大学付属病院、県立那覇病院、那覇市立病院などを経て、2010年よりハートライフ病院勤務